

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□教科	芸術（音楽Ⅰ）			
□授業時数	2時間/週			
□教材	MOUSA1(教育芸術社), Music Note (啓隆社)			
□学習到達目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことができるようにする。			
□成績評価基準	各単元ごとの実技テスト、平常点（授業態度や課題提出状況など）			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の授業計画について</li> <li>・歌唱 校歌</li> <li>・歌唱 「オーソレミオ」（イタリア語）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の授業について知る。（内容、テストや提出物について）</li> <li>・校歌を3番まで歌えるようにする。</li> <li>・日本語や外国語に関心を持ち、独唱曲のよさに触れる。</li> <li>・カンツォーネの魅力に触れる。</li> </ul>	歌唱テスト
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソルフェージュ コンコーネNo. 50 コールユーブンゲンNo36 聴音</li> <li>・器楽 リコーダー 「バッヘルベルのカノン」4重奏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の基礎的能力を高める。</li> <li>・正しい音程を繰り返し練習し、習得する。</li> <li>・簡単なリズムやメロディーを聴き取り、正しく五線に書く。</li> <li>・旋律を聴き取り、読譜などの練習を通して、楽曲を豊かに表現するための技能を身につける。</li> <li>・音量やアーティキュレーションなどに留意しながら、調和のとれたアンサンブルをする。</li> <li>・互いの音を聴き合い、各パートの役割を意識しながら演奏する。</li> </ul>	
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽 リコーダー 「バッヘルベルのカノン」4重奏</li> <li>・ミュージカル鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上げとして、グループで練習する。</li> <li>・お互いのパートを聴き合いながら演奏する。</li> <li>・ミュージカルの歴史について知る。</li> <li>・ミュージカルの魅力に触れる。</li> </ul>	実技テスト  感想提出
	7	前月の続き	前月の続き	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱 「栄光のかけはし」二重唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの音を聴き合い、各パートの役割を意識しながら歌う。</li> <li>・曲にあった発声で歌う。</li> <li>・曲の背景を知る。</li> <li>・美しいハーモニーを目指して歌う。</li> <li>・音楽記号を理解して表現に生かす。</li> </ul>	実技テスト

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	・自由課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選曲自由</li> <li>・主体的、積極的に取り組む。</li> <li>・楽器の組み合わせや、演奏方法など創意工夫して練習する。</li> <li>・自分なりのイメージを持って演奏する。</li> </ul>	実技テスト (演奏会形式)
	11	・自由課題	発表会に向けて、技術向上と表現を工夫する。	
	12	・自由課題	・発表会	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱</li> <li>「HEIWAの鐘」三重唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲にふさわしい発声の仕方での表現する。</li> <li>・パート間のバランスなどに注意して歌う。</li> <li>・美しいハーモニーを目指して歌う。</li> <li>・歌詞の意味を理解しながら歌う。</li> </ul>	実技テスト
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽</li> <li>「クラッピング・カルテット」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なリズムを理解し、表現する。</li> <li>・ハンドパーカッションによる強弱を工夫し、演奏表現の幅を広げる。</li> <li>・リズム創作とボディーパーカッション</li> </ul>	実技テスト
	3	・実技テスト	・クラッピング発表	

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□教科	芸術（美術Ⅰ）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	高校生の美術1（日本文教出版），ポスターカラーセットその他			
□学習到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を持つとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることが出来るようにする。			
□成績評価基準	年間を通した課題提出作品の平均、平常点（授業態度、忘れ物の有無、課題提出状況など）の総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・「静物デッサン」</li> </ul>	<p>一年間の予定、必要な用具などについて理解する。</p> <p>モチーフはハーフブロックとハーフレンガ、美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。</p>	<p>A3画用紙 鉛筆 モチーフ 参考作品提示</p> <p>作品提出</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン基礎</li> </ul>	<p>①ポスターカラーによる着色の基礎、「溝引き」を習得する。</p> <p>②ポスターカラーにて「明度段階」および「色相環」を作成する。</p> <p>ポスターカラーの扱いや着色時の注意点を習得する。</p> <p>色彩についての基礎知識を理解する。</p>	<p>ケント紙 ポスターカラー 定規 溝引き棒</p> <p>作品提出</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「名作模写」</li> </ul>	<p>『真珠の耳飾の少女』フェルメール</p> <p>グリッド線のある見本①を見て、鉛筆で下書きする。 次にカラーの見本②を参考に、ポスターカラーで着色する。</p>	<p>A3ワトソン紙 鉛筆 ポスターカラー 見本①(グリッド 印刷済み、白黒) 見本②(カラー)</p> <p>作品提出</p>
	7	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>①静物デッサン</li> <li>②色相環</li> <li>③模写</li> </ul>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自画像デッサン」</li> <li>・「木版画（自画像）」</li> </ul>	<p>鉛筆による自画像のデッサン。</p> <p>鏡を良く見て描く方向を決め、自分の内面をも見つめながら表現する。</p> <p>自画像デッサンを下絵にして、次に木版画で表現する。</p> <p>木版画は素材感が強く、左右が反転したり、白と黒以外の中間調が表現できないなど、デッサンとはまったく異なる表現形式である。</p>	<p>A3画用紙・鉛筆 鏡 参考作品提示 作品提出</p> <p>シナベニヤ 彫刻刀 トレーシングペーパー カーボン紙 墨汁・面相筆</p>

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「木版画（自画像）」</li> </ul> 継続学習	「理想の自分の部屋」をデザインする。 一点透視図法を用いて室内の様子を表現する。	インク ローラー バレン ウェス 鳥の子紙 参考作品提示 作品提出  グリッド線印刷済みの A3ケント紙 鉛筆
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静物デッサン」</li> </ul> 評価	モチーフは市松模様の台紙と透明なガラスのコップ。 美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。	ポスターカラー 参考作品提示 作品提出  A3画用紙 鉛筆 参考作品提示 作品提出
	12		①自画像デッサン ②木版画 ③室内デザイン ④静物デッサン	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カッティングによる平面構成」</li> </ul> 継続学習	色画用紙を切り貼りして平面構成を行う。条件は次の通り。 ・台紙(A3ケントボード)の中央に画面を作成・構成する。 ・8センチ×8センチの正方形を9枚並べる形で構成する。  条件を満たせば、どのような構成でも基本的には可とする。 ただし美術作品としての平面構成である以上美しさを追求する。	色画用紙 (20色以上) A3ケントボード ステンレス定規 カッター カッティングマット スティックのり 木工用ボンド  参考作品提示
	2			
	3		①平面構成	
			評価	

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□教科	芸術（書道Ⅰ）			
□授業時数	2時間/週			
□教材	書Ⅰ（光村図書）			
□学習到達目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を持てるようにする。加えて感性と書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。書の伝統と文化についての理解を深める。			
□成績評価基準	年間を通した課題作品，平常点(授業への取り組み・制作態度，忘れ物の状況，課題提出状況等)などによる総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	○ ガイダンス  ○ 四書体の確認（氏名）  1 楷書の学習	○ 年間の授業展開について  ○ 楷・行・隸・篆書の四書体による氏名の確認  ○ 楷書の特徴・用筆と運筆	
	5	2 楷書の学習	○ 書体変化の概念を理解し，篆書の位置づけ，基本的な用筆・運筆を知り，楷書への展開をする	プリント
	6	3 漢字仮名交じりの書の学習 「短冊」	○ 漢字と仮名の調和，形式に応じた全体構成の方法について理解する ○ 仮名の連綿による表現 ○ 自作の俳句・短歌等を短冊にバランス良くまとめる	確認テスト
	7			
	9	○ 展覧会作品	○ 各自の多様な表現で展覧会作品を制作 鷗友書道展への作品出品（表彰は3学期）	

令和8年度 高校2年 文系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	4 篆刻の学習	○ 書道 I から継続し、氏名を篆刻で制作する	
	11	同上	同上	確認テスト
	12			
	1	5 細字の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単純明快な運筆を学習する</li> <li>○ 小筆の運筆・執筆法</li> <li>○ 集中力の養成</li> </ul>	プリント
	2	6 創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自が選択した題材を1年間で学習した執筆法により色紙を完成させる</li> <li>○ 倣書から創作へ</li> </ul>	プリント 確認テスト
	3			